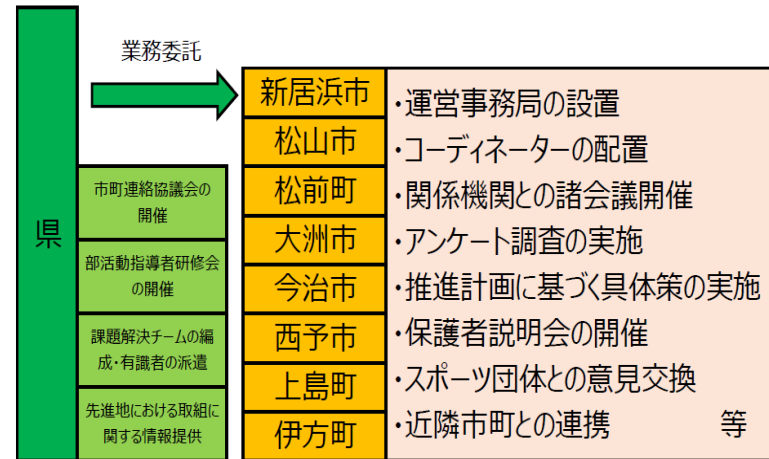


自治体の課題、現状

本県が抱える最大の課題として、指導者はもとより、クラブ運営のノウハウ等を有する**人材の不足**が挙げられる。また、その他にも、**関係者間の理解・合意形成、受け皿となり得るスポーツ団体の発掘、安定した財源の確保**などがある。こうした課題を着実に解決していくためには、地域の実情に合わせた**オーダーメイド型の手法**で対応する必要がある。

地域連携・地域移行を進める関係課が連携しながら、率先した取組みを進めつつ、**市町への伴走支援**に努めている。また、関係団体に対する働きかけを積極的に行い、「**地域の子供たちは学校を含めた地域で育てる**」意識の醸成を図っている。

運営体制図



地域連携・地域移行 取組イメージ



運営体制図地域移行関連の取組、成果

- 県関係部局が連携してスポーツ・文化芸術による「まちづくり」に取り組むワーキンググループを設置したことにより、**機動的な協働体制が整備**された。
- 先進地の課題解決に係る知見を市町担当者と共有する機会を設けたことで、今後の**取組の加速**につなげることができた。
- アドバイザー派遣を通して、市町が希望するタイミングで**課題を共有**するとともに、**解決の方向性に対する助言**を行うことができた。
- 指導者マッチングアプリの導入に向けて、市町担当者との意見交換を実施したことで、**導入後の効果的な活用を視野に入れた検討**を進めることができた。

### 自治体の課題、現状

- ・人口減少等の地域全体の課題は……。
- 市内中学校生徒数が、平成27年度から令和6年度にかけて減少傾向にある。
- ・地域移行の取組の現状は……。
- 令和6年度は実証事業として地域クラブ活動を9校13部活動で実施
- ・地域移行を進める上での課題は……。
- 受け皿となる実施団体や競技の専門性を備えた指導者の確保

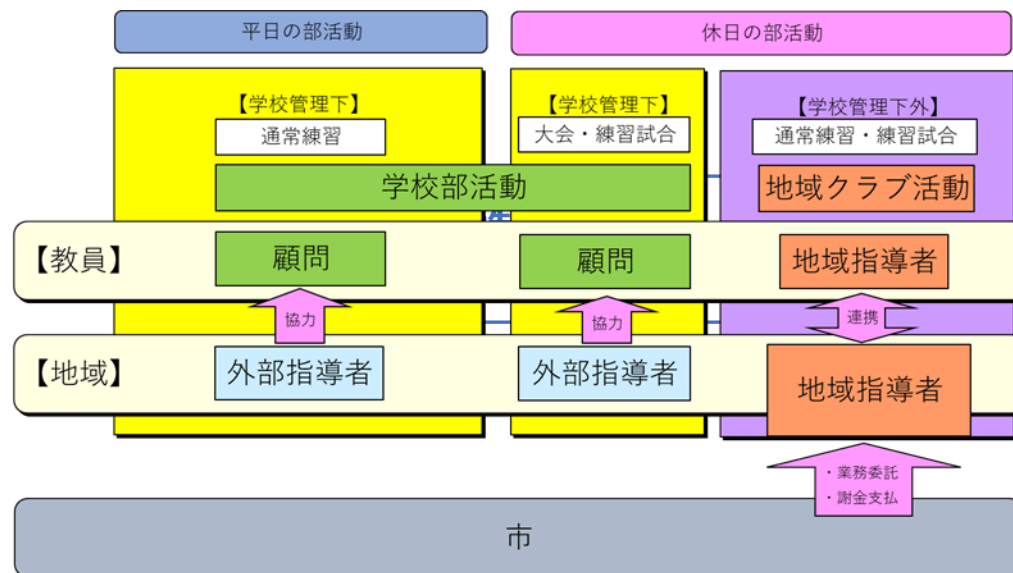
### 地域スポーツクラブ活動等の概要

|          |                      |            |                                      |
|----------|----------------------|------------|--------------------------------------|
| 中学校数     | 29校                  | 全生徒数       | 12,048人                              |
| 域内の部活動数  | 280部                 | 実施した地域クラブ数 | 10クラブ                                |
| 全体の指導者数  | 40人                  | 全体の運営スタッフ数 | 66人                                  |
| 主な運営団体   | 総合型地域スポーツクラブ<br>保護者会 |            |                                      |
| 主な種目     | 軟式野球、サッカー、ソフトテニス…    |            |                                      |
| 平均的な活動回数 | 3.3回/月               | 年間平均参加生徒実数 | 3年：6人/クラブ<br>2年：9人/クラブ<br>1年：11人/クラブ |
| 参加会費     | 0円/年                 | 主な活動場所     | 各中学校                                 |

### 地域移行関連の取組、成果

- ・庁内検討会議及び外部有識者による懇話会を開催し、地域移行に向けた運営体制や人材確保について協議を行うとともに、本市独自の方針・計画（案）を取りまとめた。
- ・地域クラブとして活動している団体・指導者やこれから活動していこうとする団体・指導者が参加した意見交換会を開催した。
- ・生徒のニーズや意見が反映される仕組みを検討するため、地域クラブ活動に関するアンケートを令和7年2月に実施。そこで得られた成果や課題を踏まえ、令和7年度は市内すべての中学校において、1つ以上の部活動で休日の地域移行に取り組む。

### 運営体制図



自治体の課題、現状

本市においては、15校の公立中学校があり、生徒数3,293人で122部活が活動している。その中でも、単独校で部活動が成り立つ学校と、既に複数校で活動しないと成り立たない学校が生じている。要因としては、少子化によるもののほか、特に島しょ部における深刻な過疎化の影響が考えられる。

令和5年度から、本市独自の事業に取り組んできたが、今後は、こうした事業の検証を基に、本市の実情に応じて、国や県のガイドライン及び計画に基づき、まずは休日の部活動の地域移行に取り組んでいきたい。

地域スポーツクラブ活動等の概要

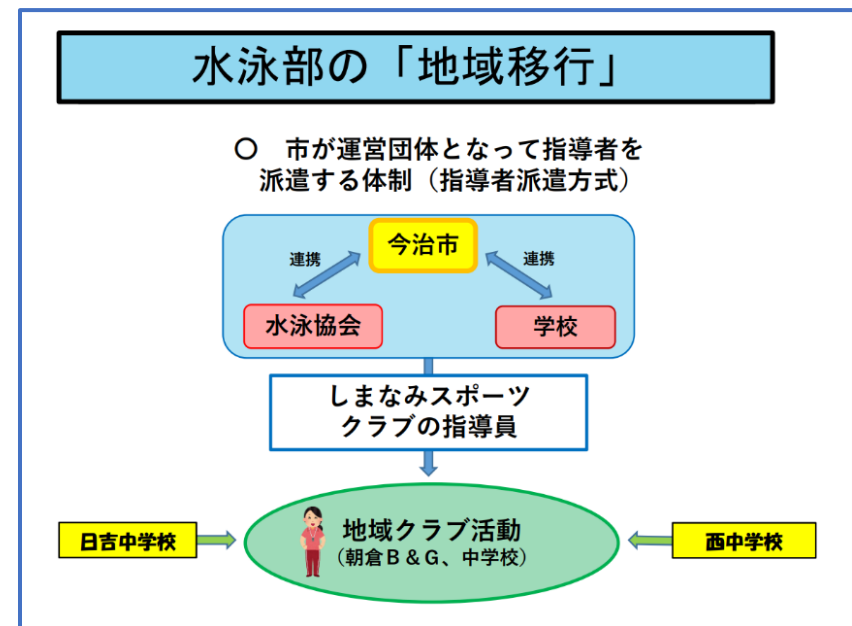
|          |             |            |                                      |
|----------|-------------|------------|--------------------------------------|
| 中学校数     | 15校         | 全生徒数       | 3,293人                               |
| 域内の部活動数  | 122部        | 実施した地域クラブ数 | 1クラブ                                 |
| 全体の指導者数  | 1人          | 全体の運営スタッフ数 | 0人                                   |
| 主な運営団体   | しまなみスポーツクラブ |            |                                      |
| 主な種目     | 水泳競技        |            |                                      |
| 平均的な活動回数 | 4回/月        | 年間平均参加生徒実数 | 3年：8人/クラブ<br>2年：7人/クラブ<br>1年：13人/クラブ |
| 参加会費     | 10,000円/年   | 主な活動場所     | 瀬戸内温泉プール                             |

地域移行関連の取組、成果

今治市教育委員会学校教育課が総合型地域スポーツクラブ「しまなみスポーツクラブ」と連絡・調整を行い、水泳の指導員を派遣した。派遣先は、学校で実際に活動をしている、今治市立日吉中学校と今治市立西中学校の水泳部である。活動場所は、主に瀬戸内温泉プールと中学校のプールである。

専門的な技術指導を受けることによって子どもたちの技能が向上し、県大会等で活躍したり、部活動顧問の負担軽減に繋がったりといった報告を受けている。

運営体制図



自治体の課題、現状

【現状】新居浜市では生徒の約6割が運動部に約2割が文化部と参加する割合も高い。持続的に取り組むためには、学校だけではなく地域と連携していくことが必要である。

【課題】人材の確保、活動できる場所の確保、対象地域が広範囲となった場合の生徒の移動手段、教員・指導員の役割分担と連携、持続可能な財源確保などが課題であるが、まずは市としての方針、推進計画の策定に向けて、実証事業の検証を行うなど、「できるところからできるものから」取り組みを進めていく。

地域スポーツクラブ活動等の概要（一例）

● NiJi 活動概要

|                 |   |
|-----------------|---|
| 地域クラブ活動で実施した種目  | バスケットボール  |
| 運営団体名           | 新居浜市バスケットボール協会U15クラブ (NiJi)                     |
| 期間と日数           | 週2～4回 平日17:00～19:00、19:00～21:00、土曜、日曜午後         |
| 指導者の主な属性        | 教員等OB（経験者）、社会人                                  |
| 活動場所            | 市内中学校体育館  |
| 主な移動手段          | 指導者の自家用車、部員の自転車                                 |
| 1人あたりの参加会費等（年額） | 14,000円   |
| 1人あたりの保険料       | スポーツ安全保険<br>生徒1人あたり：800円/年<br>指導者1人あたり：1,850円/年 |

● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

● 運営スタッフ 15名

役割：全体の統括、運営及び会計を行う

● 指導者（コーチ）9名

役割：競技の専門的な指導、練習試合の引率等を行う

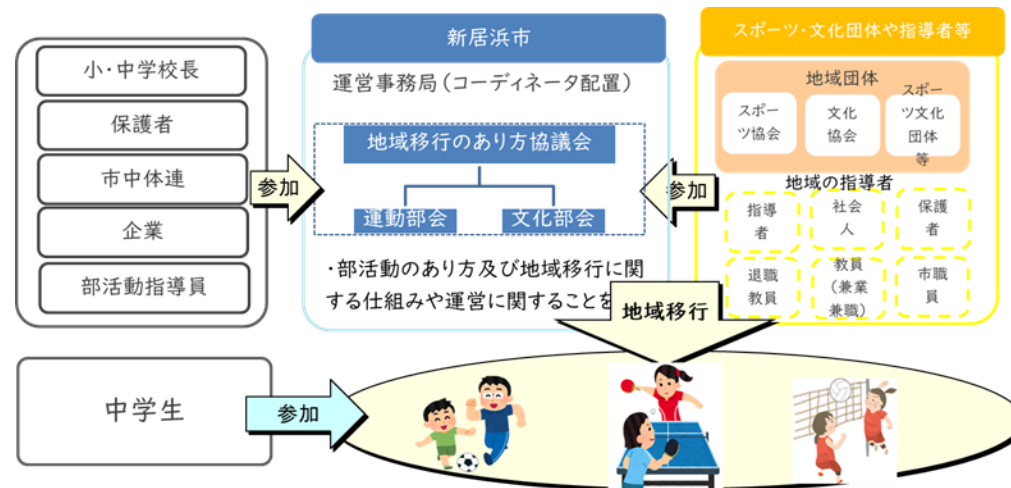
地域移行関連の取組、成果

新居浜クラブユース（バレーボール）については、学校体育と社会体育の合併に向けた取り組みを継続しており、今後の地域展開の重要なモデルケースとなりうる実証事業である。

NiJi（バスケットボール）については、市内で活動を希望する生徒が、市外の地域クラブへ所属するしか選択肢がないという状況を踏まえ、そういった生徒の受け皿となるため、令和6年6月に発足したモデルケースとなる。

NINOS陸上クラブ（陸上競技）については平成28年に設立、中学生だけでなく、小学生も参加し、指導者も高校のベテラン指導者や日本陸上競技連盟の公認ジュニアコーチの資格取得者も在籍、会員数も増加傾向にあり、クラブ内の競技力も向上しており、地域展開を目指す姿となっている。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・人口減少等により、8校ある中学校の生徒数が12年後には約半数になることが推測されることから、団体競技の部活動は縮小し、また、休部・廃部が増えることで、生徒が選択できる種目がますます減少し、生徒たちの希望に応えることが難しくなっている。
- ・市域が東西 38 km、南北 21 kmと広く、8中学校間も距離があることから、現状、合同部活動を行う場合も、生徒の移動には通学バスが不可欠となっており、地域クラブを実施する場合の生徒の移動方法が課題となっている。

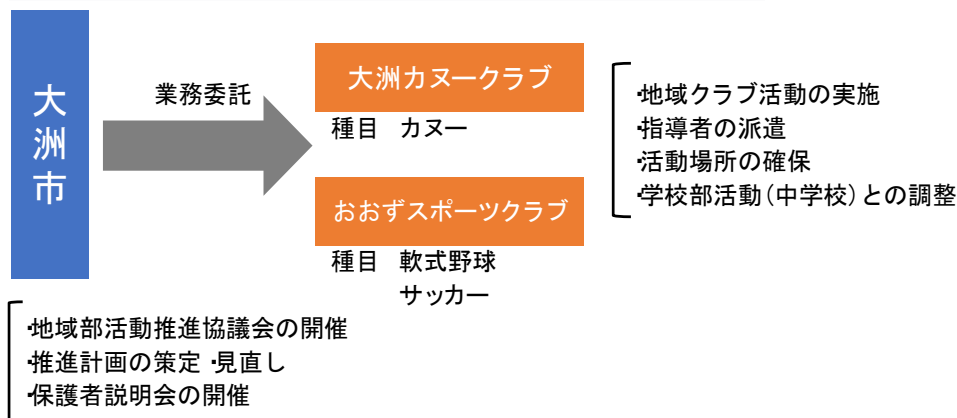
地域スポーツクラブ活動等の概要

|          |                                       |            |                                     |
|----------|---------------------------------------|------------|-------------------------------------|
| 中学校数     | 8校                                    | 全生徒数       | 1,043人                              |
| 域内の部活動数  | 57部                                   | 実施した地域クラブ数 | 3クラブ                                |
| 全体の指導者数  | 10人                                   | 全体の運営スタッフ数 | 2人                                  |
| 主な運営団体   | 総合型地域スポーツクラブ<br>競技団体                  |            |                                     |
| 主な種目     | カヌー、軟式野球、サッカー                         |            |                                     |
| 平均的な活動回数 | カヌー<br>20回/月<br>軟式野球・<br>サッカー<br>2回/月 | 年間平均参加生徒実数 | 3年：1人/クラブ<br>2年：8人/クラブ<br>1年：4人/クラブ |
| 参加会費     | 2,000円/年                              | 主な活動場所     | 肱川、中学校、徳森公園等                        |

地域移行関連の取組、成果

- ・スポーツ少年団の代表、スポーツ推進委員、PTAの代表が集まる会議等において、本市の取組み、地域移行の必要性、地域クラブの役割等について説明し、情報の共有、意見交換を行った。
- ・地域移行の取組の現状としては、学校部活動にない競技種目であるカヌーは、地域クラブ運営も関係団体と協働で行い、**地域に密着した活動**となっている。**大洲高校と連携して平日等の活動を行うこと**で、高校での競技活動へのスムーズな移行ができ、また、小学生も在籍していることから中学生に進学した際にも地域クラブ活動に参加できる環境が構築された。
- 一方、学校と連携して行う休日の地域クラブ活動は、生徒、保護者の部活動ファーストの意識が強いこと、受益者負担や活動場所への送迎などが地域クラブ参加への足かせとなっている。事業実施では、効率的に連携・調整できるよう、市、地域クラブ、校長会が情報を共有し、随時、相談や要望を行ったことで、学校部活動と地域クラブ相互の活動を無理なく実施することができた。

運営体制図





自治体の課題、現状

本町は、離島という地理的な不便さを抱えている自治体であり、町内3校の中学校はすべてが小規模校で、全中学生が89名（令和6年5月1日時点）、自治体の総人口も6,110人（令和6年9月1日時点）である。地域に総合型地域スポーツクラブはなく、今後の設置も難しい。そのため、部活動の地域移行に向けた競技種目の選択や指導者の確保に向けた課題が大きい。そこで、これからの学校部活動の在り方について、部活動検討委員会（協議会）を通じて慎重に検討しつつ、できるところから、できるもので、休日の部活動を地域クラブ活動へ移行していく必要がある。

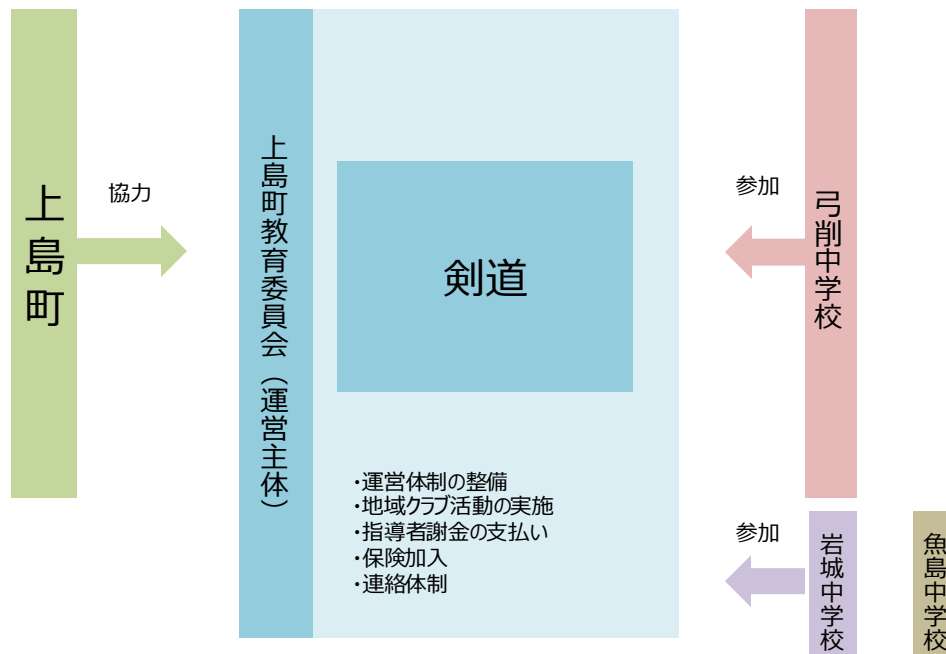
地域スポーツクラブ活動等の概要

|          |          |            |                                     |
|----------|----------|------------|-------------------------------------|
| 中学校数     | 3校       | 全生徒数       | 89人                                 |
| 域内の部活動数  | 8部       | 実施した地域クラブ数 | 1クラブ                                |
| 全体の指導者数  | 15人      | 全体の運営スタッフ数 | 14人                                 |
| 主な運営団体   | 上島町教育委員会 |            |                                     |
| 主な種目     | 剣道       |            |                                     |
| 平均的な活動回数 | 3回/月     | 年間平均参加生徒実数 | 3年：0人/クラブ<br>2年：5人/クラブ<br>1年：0人/クラブ |
| 参加会費     | 0円/年     | 主な活動場所     | 弓削中学校                               |

地域移行関連の取組、成果

- **専門的な指導が実現**できたことが大きな成果である。競技経験のある指導者を招き、技術指導を行うことで、参加者のレベルアップを図れた。
- **校区外の生徒も参加**したことが本事業の特徴的な成果である。今後、地域全体での交流が進み、他校の生徒同士が互いに切磋琢磨しながら活動することも考えられる。
- 教員の時間外勤務時間については、対象のスポーツの顧問のみであるが、**時間外勤務時間が削減**された。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・指導者の確保について。  
円滑な地域移行の鍵となる、部活動指導員等の指導者人材の確保。
- ・費用負担について。  
公費負担となる平日部活動との関係、休日部活動に移行した部のみが受益者負担の対象となることや地域団体ごとに参加費に差が出ること等への不公平感、経済的に困窮する生徒への支援など。

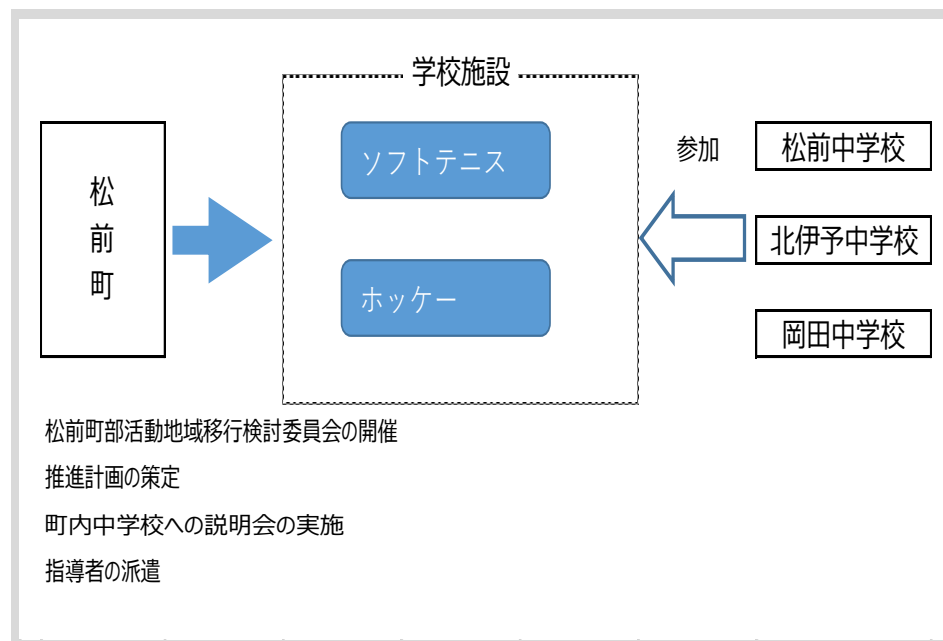
地域スポーツクラブ活動等の概要

|          |             |            |                                     |
|----------|-------------|------------|-------------------------------------|
| 中学校数     | 3校          | 全生徒数       | 838人                                |
| 域内の部活動数  | 30部         | 実施した地域クラブ数 | 2クラブ                                |
| 全体の指導者数  | 5人          | 全体の運営スタッフ数 | 2人                                  |
| 主な運営団体   | 松前町         |            |                                     |
| 主な種目     | ソフトテニス、ホッケー |            |                                     |
| 平均的な活動回数 | 4回/月        | 年間平均参加生徒実数 | 3年：8人/クラブ<br>2年：8人/クラブ<br>1年：8人/クラブ |
| 参加会費     | -円/年        | 主な活動場所     | 北伊予中学校                              |

地域移行関連の取組、成果

- ・指導者確保のため令和7年1月より「松前町立中学校 部活動外部指導者 部活動指導員 人材バンク」を設置。
- ・少子化対策ならびに子どもの選択機会を増やすため、令和7年度から中学校部活動において**拠点校部活動**や**合同部活動**を始める。
- ・地域展開への理解を得るため、住民新入生説明会や地域での説明会を各学校区単位で開催した。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・町内中学校では、生徒数の減少に伴う学校の小規模化、部活動の存続、部活動の選択肢の減少などの課題を抱え、生徒の興味・関心に応じた部活動の設置・運営に困難な状況が生じている。
- ・地域移行の取組の現状としては、指導者の確保が難しく、現在土日の地域移行を目標にしているが、教職員の兼職兼業も含めて検討している。
- ・地域移行を進める上での課題は、指導者の確保及び地域移行に対して様々な機会をとらえ、理解を得られるように努めたい。

地域スポーツクラブ活動等の概要

|          |          |            |                                      |
|----------|----------|------------|--------------------------------------|
| 中学校数     | 3校       | 全生徒数       | 138人                                 |
| 域内の部活動数  | 6部       | 実施した地域クラブ数 | 1クラブ                                 |
| 全体の指導者数  | 2人       | 全体の運営スタッフ数 | 1人                                   |
| 主な運営団体   | 伊方町教育委員会 |            |                                      |
| 主な種目     | 卓球       |            |                                      |
| 平均的な活動回数 | 1～3回/月   | 年間平均参加生徒実数 | 3年：5人/クラブ<br>2年：9人/クラブ<br>1年：11人/クラブ |
| 参加会費     | 0円/年     | 主な活動場所     | 伊方中学校                                |

地域移行関連の取組、成果

- ・令和6年10月より教育委員会（事務局）にコーディネーターを配置し、部活動地域移行に向けて取り組むこととした。
- ・部活動指導者を対象に資格取得に要する経費を全額支給する。（今年度は8名に支給）

運営体制図

